

望月百合子 もちづき ちやうこ 評論家。明治二十二年九月五日東京生まれ、平成十二年六月九日没（一九〇一—二〇二一）。本名古川百合。號芙蓉。大正八年成女高等女學校卒。『讀賣新聞』記者等と經り、十一年石川二郎の同行してフランスへ遊學。歸國後ヤナギダム系の論客として雑誌『女人藝術』等で評論活動。昭和十一年渡滿し『滿洲新聞』婦人部長など。戦後歸國。

譯著書、マナトオム・フランス作『タナイム』(望月百合名、譯、大正十二年十一月十五日新潮社『現代佛蘭西文學叢書』)、『精銳十人傑作集』(合著、昭和八年四月、千代田現代評論社)、ボードレール著『美術評論(第一部)』(ロマン派の繪畫) (譯、昭和十年二月、千代田らんす書房)、ヤンデル・リシユテンブルジエ作『ロットと猫と犬』(譯、昭和十年十一月五日らんす書房)、ボードレール著『ロマン派の繪畫—想像力(美術評論叢(二部))』(譯、昭和十一年九月十日らんす書房)、中村千世著『白晝像』(編、昭和十二年六月五日中村千世舞踊同人會)、『新らしき神様の國—私は中共から帰つて来た』(編、昭和二十九年七月十日富士書苑)、『灰色の恐怖—中共は天國の地獄か』(編、昭和三十一年九月十五日万里閣新社)、歌集『幻のくさび』(昭和二十九年十月十日みちの会)、同『夢』(昭和四十年二月十日みちの会)等。

